

震災後、エネルギーの話題が人々の口にのぼることが増えましたね。これまで、壁のコンセントにつなげば「電気料金を払っている限り」好きにだけ電気を使えるのが当然で、コンセントの先はどこにつながつているのかなんて、考えてもいなかった人が多かったでしょう。でも、今回の震災・原発事故で、私たちの暮らしを支えているエネルギーと自分たちとのつながりが明らかになりました。

## 震災100日レディーストーク 新エネルギー ③

# 市民が望む方に社会動く

「抱く人も増えています。これまでエネルギーのことなんて



枝廣 淳子氏

政府や業界に任せておけばよいと思っていた、けれど、やっぱり自分たちで考えなくちゃ、自分たちで望ましい未来

## ～ エネルギーの未来 ～

環境ジャーナリスト 枝廣 淳子氏

の姿を創っていかなくちゃ、しかも国産」のエネルギーはすでに存在しています。

今回のような事故が起こると、世界中に長期間にわたって大きな被害を出してしまう原発ではなく、温暖化を加速してしまつ化石エネルギーでもなく、自分たちの世代だけでなく、未来世代にとっても安全で、いつまでもなくならずに使い続けられるエネルギーがいいと思いませんか？

太陽や風、地熱といった自然エネルギーです。世界的に見ると、世界中に長期間にわたって大きな被害を出してしまう原発ではなく、温暖化を加速してしまつ化石エネルギーでもなく、自分たちの世代だけでなく、未来世代にとっても安全で、いつまでもなくならずに使い続けられるエネルギーがいいと思いませんか？

それぞれで考え、お互いに意見を言ったり聞いたたりしましょう。「30年後、50年後の日本のエネルギーはどうあってほしいか」を思い描きましょう。私たちが市民が望む方向に、社会は動いていくのですから。

えだひろ・じゅん

62年京都府生まれ。翻訳家、環境ジャーナリスト。6月12日開催の自然エネルギーに関する総理・有識者懇談会に参加。